

# 能楽の時代別変遷：保護者、機能、観衆、集団の歴史的役割

時代	保護者	機能	観衆	集団
鎌倉時代末期	寺社 (一方的) 契約関係	祭礼・奉仕 <b>庶民の娯楽</b>	一般民衆	中世の職能集団体としての座
室町時代中期	猿樂者	猿樂	築田寺薪能の位置づけ	原点回帰
安土桃山時代 江戸時代	幕府・大名 隸属的関係	儀式（式楽）・饗宴 <b>武家の教養娯楽</b>	武家	劇団的座 (流派の有機的総合体)
明治以降	能役者	能樂		座解体 流派のみ
～現代	華族・財閥 形式的独立関係	饗宴・教養・娯楽 <b>特権階級の教養娯楽</b>	特権階級 知識階級	現代における能の敷居の高さの背景

岩倉具視ほか、伊藤博文・山県有朋などの新政府高官などの皇室をいただいた能楽復興運動の政治的意図。三井物産・三菱商事などの政商および当時のブルジョアジーを集めた改進党嚙鳴社などの新しい保護者出現

<引用・参考文献>

- ・東京風俗志 下 平出鏗二郎著 富山房 1902 (明治35)年
- ・芸能社会と家元制度 (上) 島崎穂 1953年